

11 / 8

子どもたちが外国語により親しむ町を目指して

「これからの外国語教育を考える会 in Shiwa」が紫波第一中学校で開催されました。町が平成26年から4年間、文部科学省の委託を受けて取り組んできた「外国語教育強化地域拠点事業」の研究成果を提案する場として、県教育委員会と町教育委員会が主催。児童や生徒たちがより外国語に親しめる授業方法を学ぼうと、県内外から約240人の教職員が参加しました。この事業は、日詰小、赤石小、古館小、紫波一中、紫波総合高が指定校となり、英語によるコミュニケーションへの関心や能力の向上、小中高8年間の教育内容の円滑な接続を目指すために行われたもの。当日は指定校による15分の短時間授業や、外国語でのコミュニケーションを重視した授業を参観した後、参加者たちは授業の展開方法など、実践に当たっての課題などについて討議。公開授業を受けて、花巻市立宮野目中学校の三浦隆校長は「子どもたちの『話したい』『聞きたい』という興味を引き出す授業が提案され、児童も先生もコミュニケーションを楽しんでいる感じが感じられました。話の内容に耳を傾け、共感や驚きといった反応も見られました」と評価しました。最後に、福島大学の佐久間康之教授による「記憶に残る英語教育～小学校から大学までを考える～」と題した講演も行われました。



町外国語指導助手と英語で会話する古館小5年生の児童

11 / 12

町産ヒメノモチを使った ご当地商品が準グランプリ



インパクトのある大きさが特徴です

（株）紫波まちづくり企画が今年1月に開発した『紫波ベーコンもちー』が「全国ご当地もちサミット2017 in一関」で準グランプリに輝きました。町産ヒメノモチを使用した餅とチーズをベーコンに挟んで揚げた『紫波ベーコンもちー』は、長さ23cm、重さ200gのボリュームで食べ応え抜群。同サミットはお客様の投票数で賞が決定するもので、お餅とベーコンの絶妙なハーモニーが評判を呼び、2日間で1800個が完売したそうです。商品はラ・フランス温泉館内のレストランで食べることができます。

10 / 29

気分はすっかり 縄文人♪



まが玉を自分の好きな形に削る子どもたち

町教育振興運動推進委員会（七木田一善会長）は、赤沢地区の船久保公民館で『紫波っ子サイエンス教室 第2回「縄文の科学」』を開催しました。親子70人が参加。あいにくの雨模様で予定していた野焼きは中止となりましたが、公民館内でまが玉やミサガ作り、縄文クイズをとおして縄文時代の暮らしや遊びを学びました。その後、赤沢公民館に移動して火おこし体験をし、振る舞いの豚汁やお餅を食べ、体を温めていました。長岡小学校4年の福土連二君は「まが玉作りは、かどを削るところを頑張りました。昨年より上手にできました」と満足の表情でした。

11 / 15

みんなで応援！ 林業の未来



林業の仕事での体験談などを話した
(左から)板垣さん、平田さん、菅原さん

「夜のとしょかん 林業編」が町図書館で行われ、参加した約80人が森の仕事の多様さや魅力に触れました。この日のゲストは林業の魅力を伝える漫画『お山ん画』作者の平田美紗子さん、林野庁図書館長の板垣靖さん、森林循環アドバイザーの菅原和博さん、県林業技術センターの高橋忠幸さん。平田さんは「山の仕事は身近なものではないかもしれませんが、林業は循環産業で素晴らしい仕事です。皆さんにはぜひ山の応援団になってほしいです」と呼びかけ、高橋さんは「木を伐採後、新たに植えて育ててこそ『循環』につながります。林業に携わる人材を育成することが重要です」と訴えました。

11 / 14・15

卵料理で橋本善太を 顕彰するわんぱくまつり



指導に当たった保護者や地域の人たちと一緒においしくいただきました

日詰公民館(堀内憲一館長)は、名誉町民の橋本善太を顕彰する「わんぱくまつり」を日詰小学校で開催しました。3年生の児童68人がクラスごとに受講。毎日卵を産むニワトリを開発した橋本善太の功績や卵の持つ栄養素などについて説明を受けた後、鶏肉のりんごジュース煮やプリンなど、町産や県産の食材を豊富に使用したメニューの調理に挑戦。宮森健太君は「毎日卵を産むニワトリを発明したのが町出身の橋本善太だということにびっくりしました。家で卵焼きや目玉焼きはよく作るけど、今日はプリンなども作れておいしかったです」と話していました。

11 / 21

もちもち食感の小麦で ひつつみ作りに挑戦



楽しそうにひつつみをこねる児童たち

町内で食育と花育の活動を行う「しわうーまん(大森友紀子代表)」は、赤沢児童館の児童8人にひつつみ作りを指導しました。ひつつみには、もちもちした食感が特徴の小麦「もち姫」を使用。児童たちは思い思いに生地を形作り、町食生活改善推進員赤沢地区の皆さんの協力も得て、つるつとした食感が特徴のおいしいひつつみが完成しました。大森代表は「農業を普及し、地産地消を目指した食育を実践できればと思い、町内の保育園や児童館などで活動しています。農業や花に関する仕事に携わりたいと思ってくれる子どもが増えればうれしいです」と思いを話しました。

11 / 16・17

公民連携によるまちづくり が都市計画分野で評価



図書館で工藤館長からコンセプトなどを聞く視察者たち

町は11月16日、(公財)都市計画協会(竹歳誠会長)主催の第69回都市計画全国大会で「第32回都市計画協会会長賞」を受賞。会場の盛岡市民文化ホールで、熊谷町長が竹歳会長から賞状を受け取りました。今回の受賞は公民連携手法によるオガールプロジェクトの中で、地域内経済循環の仕組みを取り入れ、民間主導型のまちづくりを行っていることが評価されたもの。17日には大会に参加した全国の自治体職員など約120人がオガール地区を視察。町職員からプロジェクトの概要や建物の設計方法などについて説明を受けながら、図書館やエネルギーステーションなどを見学し、理解を深めていました。